7　図画工作科

加　藤　潔　己

1　求める子ども像と新教育課程の創造

本校図画工作科が**求める子ども像**は次のような子どもである。

思い（夢や願い）の実現のために
自ら，必要な方法を考え，判断し，表現する，子ども

そして，平成12年度に，本校図画工作科の教育課程（年間指導計画）を，子どもたちの自立にむけ，「ねらい」によって内容を再編成した。

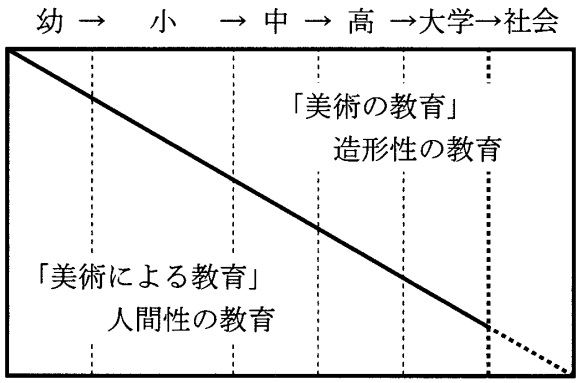
新たな図画工作科教育課程の創造

① 表現欲求，心の解放を主なねらいとする題材
② 材料経験，表現方法，表現様式の獲得を主なねらいとする題材
③ 相互理解を主なねらいとする題材
④ 造形的な見方・考え方の獲得を主なねらいとする題材
⑤ 知識，技能，造形文化の獲得を主なねらいとする題材
⑥ 学習したことを総合的に取り組むことをねらいとした題材

平成９年度から11年度は「総合的に取り組む題材」についての題材開発を中心に，実践研究を進めてきた。研究のなかで，「総合的に取り組む題材」が，生きて働くものとなるためには，①から⑤までの題材をトータルに教育課程のなかに位置づけることの必要性を感じた。

2　図画工作科がすべきことと，できること

学校教育における美術教育は，「美術の教育」と「美術による教育」の二つの目標があると言われている。本校図画工作科は，「美術による教育」つまり人間的成長の面として「創造的心情」の育成を重視した研究を進めてきた。



それは自己教育力の育成，**「自立」**と深く関わるものである。しかし，「美術の教育」と「美術による教育」は，明確に二分されるものではなく，一つの題材のなかで，両面が有機的にはたらくように求めたいと考えている。

3　研究の方向

1）諸能力の育成と教育課程

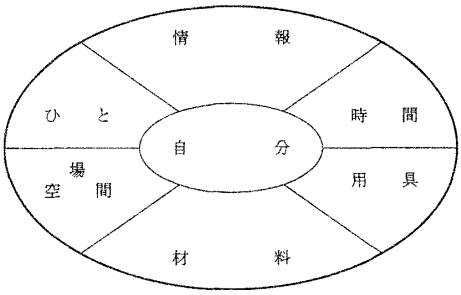
３年間の研究の成果と課題を考察するなかで，再度，子どもたちの実態の見直しを行った結果，「美術による教育」の観点から，本校では，今後さらに次のような諸能力の育成の構想をした。

「美術による教育」のねらう諸能力	題　　材	
既存の知識，経験や人のつながりを活用し進めていく **総合的課題解決能力**	⑥　総合的に取り組む題材 ③　相互理解題材	②
自分で計画し，ことを起こす **企画力（チャレンジスピリッツ）**	⑥　総合的に取り組む題材 ①　表現欲求，心の解放をねらう題材	の材 獲料 得経

自分にとって本当に必要な情報を選べる **情報処理能力**	⑥　総合的に取り組む題材 ③　相互理解題材	題材，表現方法，表現様式，経験
相手や周りから，相手の気持ちや次を見通し予測する **洞察力**	④　造形的な見方・考え方の獲得題材	
自分の考えだけに固執せず，多面的に考える **柔軟性のある思考力**	④　造形的な見方・考え方の獲得題材 ①　表現欲求，心の解放をねらう題材 ⑤　知識，技能，造形文化の獲得題材	
相手を理解し，共感できる **他者理解力**	③　相互理解題材	

2）六つの造形環境とのかかわり

図画工作，美術の学習は，表現と鑑賞の活動からなる。そのため，その両方の活動において，それぞれの能力をどのように育むかについて「かかわり」という視点から，学習づくりを保証し，研究をすすめることに目を向けた。［かかわる」対象を，もう少し大きな意味でとらえ，子ども自身を取り巻く環境」として考えとき，【時間，人，情報，場・空間，材料，用具】という６つの造形環境が考えられる。学習者がこれらの環境の対象へのかかわりをより深め，豊かにしていくことで前述した，これからの子どもたちに必要な諸能力を育成することができると考える。本校の研究のサブテーマである，ものとのかかわり，そして，人とのかかわりについて，学習をつくっていくうえで，どのように，学習環境として保証するかについての方途を研究することとした。



3）本年度研究の取り組み

本年度，六つの造形環境の保証をより具体的にするため，次のような「かかわりの表」を作成した。造形環境にかかわる支援を明確にして授業づくりを行うためのものである。

	活動		造形環境とのかかわり						支援
			材料素材	用具	場空間	ひと	時間	情報	
第2次本時	布の表現の可能性を試す	布の形を変えること，場所に働きかけること，布をもとにした表現を様々に試す。	◎	○	◎	○		○	・布の特性について，形の変化や場所への働きかけなどの可能性を，楽しく確かめる場を設定する。 ・その場所に結ぶ，つなげる，飾るなどの活動，あるいは手に持って動かす，振る，はためかす，空気の流れの中で動く様子を遊ぶ活動など，様々な試みに共感的に言葉かけをする。
	布の特性を生かし活動を楽しむ	自分の思いにあった方法を選び，活動場所にも働きかけながら布の特性を生かした活動をさらに発展する。	○ ○	○	◎ ○	○ ◎ ◎	○	○ ◎ ◎ ○ ○	・友達と共同で活動できることや，そのよさについて，助言する。 ・考えた活動について情報交換の場を持つ。 ・活動場所を十分に活用していることのよさについて言葉かけする。 ・活動を広げる試みをしている児童については全体へ紹介する。 ・教師も活動に参加し，活動を発展させることを楽しむ。 ・様々な試みが十分にできるように活動時間の保障をする。

六つの造形環境の保障は，題材全体計画のレベルと一単位時間の授業レベルで考えるものと両面ある。上の表は，題材の全体を，単元構成と支援のあり方を見通すためのものである。この表をもとに，一単位時間の指導計画を立てる際に役立てることができると考えた。

4　成果と課題

1）研究のふり返り

①教科におけるめざす子ども像

思い（夢や願い）の実現のために自ら，必要な方法を考え，判断し，表現する，子ども

これは，平成９年度からのものであり，平成12年度に見直しを図った。

諸能力の育成という観点で次の６つの力を焦点に育成をめざした。それは，総合的課題解決能力，企画力，情報処理能力，洞察力，柔軟性のある思考力，他者理解力である。これらの諸能力の具現化について，より具体化していきたい。また，「自ら，必要な方法を考え，判断し，表現する」という方法論のほうに偏よっていたと考えている。思い（夢や願い）の質，豊かさなどについて考えていく必要もある。

②サブテーマの捉え方

「人やものとかかわることを大切にして」の「人やもの」を学習者（子ども）がかかわる造形環境として捉えた。その造形環境を指導者が保証し，子どもがそれらへ自ら積極的に「かかわろうとする」態度や力を育成することを求めた。

③テーマ実現に向けての具体的な手だて

題材開発，単元及び授業構成，学習者づくりにおいて造形環境の保証という視点で取り組んだ。

④かかわりの表

研究授業を中心に授業構成段階で６つの造形環境とのかかわりを具体化できた。また授業後，授業分析に生かすことができた。さらに「かかわりの表」を改善していきたい。

造形環境の中で，「ひと」と「情報」の区別が曖昧であった。「情報」には，参考作品，参考資料の提示，インターネット，というもののほかに，指導者（教師）の発問，指示も含むが，それは「ひと」つまり人的環境のなかの指導者（教師）もあり，重なりがある。その重なりを整理したい。

⑤授業時間（30／40／60分）

現段階では，特に問題はない。ただ，全学年の指導者から情報を集めたい。

2）次年度に向けて

①小中連携

小中９年間のカリキュラムづくりをすすめる。

小学校，中学校で共通の領域，例えば「色」について系統的なカリキュラムを開発する。

小中一緒に，さらに大学との連携を図る。

②研究会

両方の授業，両方の分科会に参加できる日程等の工夫を探っていく。